vol.24

農林水産省 近畿農政局（兵庫県拠点）

農政局だより@ひょうご

2018
H-SATT

〒650-0024
神戸市中央区海岸通29 神戸地方合同庁舎
TEL:078-331-5924　email:hyogo28_hsatt@kinki.maff.go.jp

主な内容

・兵庫県拠点 豊岡駐在所閉庁のお知らせ
・平成30年産における各産地の主食用米等の作付動向を公表しました

・篠山市有害鳥獣対策推進協議会が農林水産大臣賞を受賞！！

キラリ☆現場にて
・コウノトリ育む農法で、GLOBALG.A.P.のグループ認証を取得！
　有限会社植田農園 代表取締役 植田博成さん
・失敗は成功のもと。仲間の頑張りを自分の力に！
　株式会社御津サンファーム 代表取締役 柴田陽介さん
・今年もやります。「播磨日本酒プロジェクト」
　姫路市夢前町 飯塚祐樹さん

・平成29年農林水産物・食品の輸出実績を取りまとめました
・「経営所得安定対策等の概要」をご活用下さい
・平成30年春の農作業安全確認運動実施中！

Pick Up!!

豊岡駐在所閉庁のお知らせ

このたび、近畿農政局兵庫県拠点豊岡駐在所は、平成30年3月31日をもちまして閉庁致します。

豊岡駐在所は、平成27年10月の組織再編に伴い、暫定的に豊岡市に常駐し、但馬地域において、農林水産省の出先機関として農政の推進等の役割を通じて地域の発展に寄与することを目的に取り組んで参りました。

今後は、兵庫県拠点（神戸市）が地域の皆様をはじめ、関係各所のご協力を得ながら、職員一丸となって農政課題の解決に取り組む所存でございますので、引き続きご理解とご協力をお願い致します。

平成30年4月1日からのお問い合わせ先は以下のとおりです。

近畿農政局兵庫県拠点：☎078-331-9941（代表）

地方参事官室：☎078-331-5924　消費・安全チーム：☎078-331-9943　経営所得安定対策チーム：☎078-331-9951
食料産業チーム：☎078-331-9946　食料産業チーム(輸出証明)：☎078-331-9950　統計チーム：☎078-391-2873

平成30年産における各産地の主食用米等の作付動向を公表しました

農林水産省では、産地・生産者が主体的に主食用米等の作付を判断し、需要に応じた生産・販売を行うことができるよう、きめ細やかな情報提供を行う一環として、都道府県農業再生協議会及び地域農業再生協議会からの聞き取りに基づき、都道府県段階の作付動向（1月末現在）を29年産より1ヶ月早い2月に公表しました。

兵庫県の30年産の主食用米の作付動向は、29年産実績と比較して前年並み傾向、30年産の飼料用米等の作付動向は、29年産実績と比較して、WCS等は増加傾向、飼料用米、麦・大豆（二毛作面積を含む）は前年並み傾向、加工用米は減少傾向となっています。

30年産米等の第１回中間的取組状況（平成30年１月末現在）	都道府県	主食用米		飼料用米		加工用米		ＷＣＳ		麦		大豆	
		29年産	30年産	29年産	30年産	29年産	30年産	29年産	30年産	29年産	30年産	29年産	30年産
	兵庫県	35,100ha	➡	327ha	➡	688ha	↘	775ha	↗	2,390ha	➡	2,073ha	➡

（注）主食用米、飼料用米等の30年産は、29年産作付実績と比較し、「↗：増加傾向」、「➡：前年並み傾向」「↘：減少傾向」で分類。

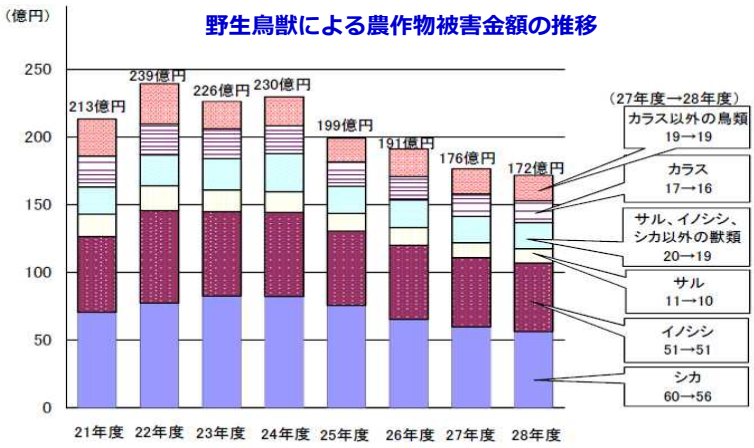
詳しくは☞ http://www.maff.go.jp/j/press/seisaku_tokatu/s_taisaku/180227.html

篠山市有害鳥獣対策推進協議会が農林水産大臣賞を受賞！！

農林水産省は、野生鳥獣による農作物被害が全国的に深刻な状況の中で、各地域における野生鳥獣被害の防止等を推進しています。

こうした中、鳥獣被害防止や捕獲した鳥獣の食肉（ジビエ）の利活用等に取り組み、地域に貢献している個人及び団体の表彰を通じて、その取り組みを広く紹介することにより、各地域での被害防止活動の推進を図っています。

今般、全国から応募のあった鳥獣被害防止や捕獲した鳥獣の食肉（ジビエ）の利活用に取り組む優良な個人及び団体の中から、篠山市有害鳥獣対策推進協議会が農林水産大臣賞「被害防止部門(団体)」を受賞されました。



注1：都道府県からの報告による。
2：ラウンドの関係で合計が一致しない場合がある。

篠山市有害鳥獣対策推進協議会の主な取り組み

鳥獣害対策として、平成20年に協議会が設立。また、協議会を支援する部隊として、県や農協に加え、大学等の専門家からなる被害対策支援チームが発足。

特にサル対策として、実施隊が県ニホンザル管理計画（特定計画）を基に、ICT大型捕獲檻等を用いた計画的かつ、効率的な捕獲を行い、適切な個体数管理を実現。更に、平成29年に近隣5市町による広域協議会も発足。

行政は専門家を交えた対策ミーティングを実施し、住民主体の対策を推進するための支援策として、電子メールでサルの位置情報や目撃情報を提供。協議会は、追い払いや柵の維持管理、生息環境管理等を内容とする出前講座や研修会等を定期的に開催。

また、協議会メンバーのNPO法人「里地里山問題研究所」の黒豆オーナー制度に登録された都市住民も侵入防止柵の見廻り点検活動に参加するなど、都市との「交流」や「収益」をもたらす活動を通じて地域住民意識を醸成。

【サル捕獲数　平成25年度：6頭　⇒　平成28年度：49頭（うち、ICT大型檻捕獲36頭）】
【市の農作物被害額　平成22年度：約2,270万円（うち、サル被害額約560万円）　⇒　平成28年度：約1,760万円（うち、サル被害額約230万円）】

詳しくは http://www.maff.go.jp/j/press/nousin/tyozyu/180216.html

コウノトリ育む農法で、GLOBALG.A.P.のグループ認証を取得！

豊岡市但東町で、コウノトリ育む農法で水稲や施設野菜等を栽培している、有限会社植田農園 代表取締役 植田博成さんにお話を伺いました。

高校を卒業後、神戸市西区で農業研修を1年間受け、その後、実家の植田農園に就農し、平成24年から代表取締役に就任しました。

平成30年1月にJAたじまの特別栽培米コシヒカリ「コウノトリ育むお米」（栽培期間中は、農薬・化学肥料不使用）でグローバルGAPのグループ認証を取得した水稲生産者４人のうち１人で、水稲は、全てコウノトリ育む農法で栽培しています。

GAPとは農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みで、他の産業では普通に実施している事で、難しいことではなく、以前より経営改善したいと考えていた事柄を見直すきっかけとなりました。GAP認証の取得により、海外への輸出等の販路拡大にも繋がればと思っています。

その他に施設や露地で、少量多品目の野菜を栽培し、JA出荷や地元直売所等での販売、もち米の農産物加工販売も行っています。

また、地元の保育園児や小学生を植田農園のほ場に招き、田んぼの生き物とふれ合う体験授業も継続して取り組んでいます。

5人の息子達の数人が将来農業を職業としてやりたいと話してくれており、今後は、その他の新規就農者も含めて若い人材を育てながら地域の農地を守っていきたいと話されました。

https://ja-jp.facebook.com/ueda.agri.corp/

キラリ☆現場にて

兵庫県内で活躍している農業者や農業生産法人、企業等の活動を取り上げ、「キラリ☆現場にて」として紹介させていただきます。

失敗は成功のもと。仲間の頑張りを自分の力に！

たつの市御津町の干拓地「成山新田」で野菜を栽培されている株式会社御津サンファーム代表取締役の柴田陽介さん（33歳）にお話を伺いました。

学生時代にアルバイト感覚で手伝った実家（兼業）の農作業が就農のきっかけとなりました。自然相手なので難しい面はあるものの、経営感覚を持つ事によって、働いた分の見返りが自分に返ってくる職業だと実感したことから準備を重ね、平成21年に御津サンファームを設立し、代表として本格的に農業に取り組むこととしました。

80ａだった経営耕地は今では約３haとなり、にんじん、だいこん、ほうれん草のほか、季節の野菜などを両親、従業員と栽培しています。当農場で栽培する野菜は「ひょうご推奨ブランド」の認証を取得しており、取引先の要望に応じて栽培する網干メロン（ひょうごのふるさと野菜）も好評をいただいています。

新しい作物、栽培方法に取り組むと失敗からのスタート、ということが多いのですが、仲間に相談しながら成長できており、そこが農業の難しくも良い面ではないでしょうか。

そして苦労して育てた野菜を納品した取引先から「リピーターがついているよ。」と聞くと農業をやって良かったと思います。また、研修会で知り合った同期の仲間の活躍を目にすると、自分も置いて行かれないように頑張ろう、という気持ちになり、良い刺激をもらっています。規模拡大など、会社として将来に向けて考えていることはありますが、経営を発展させ、少しでも雇用の受け皿となることで、地域にも貢献したいと考えています。

http://mitsu-sunfarm.co.jp/index.html

今年もやります。「播磨日本酒プロジェクト」

姫路市夢前町で独立就農された飯塚祐樹さん（38歳）に就農に至る経過、経営状況、将来の夢についてお話を伺いました。

兼業農家出身でしたが、それまで農業を手伝ったこともありませんでした。しかし、24歳の時に1年間入院し、健康の大切さを実感し「本当に安心出来る主食、体づくりの農業」を目指したいと考え、夢前町の農業法人で8年間働き、33歳の時に独立しました。既に家を建て、家族もいたことから、自然に夢前町で就農。

当時の規模は3ha程度で、大きく農業機械に投資出来ず、中古のトラクタやコンバインなど何とか農作業を出来るものを揃えましたが、機械の能力が規模拡大に追いつかず苦労しました。

現在は、「ひょうご安心ブランド」の認証を取得している主食用米を中心に水稲を11ha、小豆と野菜で1haを経営しており、効率の良い農業機械へ順次更新しています。主食用米や酒米に手間暇をかけ、加工用米は低コスト化を図り、メリハリを付けた農業に取組んでおり、面積も徐々に増やしていきたいと考えています。

また、地元の酒造会社と連携し「播磨日本酒プロジェクト」を立上げ、一般の方に酒米の田植えから瓶詰めまで楽しめるイベントを実施し、今年3年目を迎えます。播磨地域の米、野菜、果樹など品目や農法など様々の分野の若手農家グループ「農家HANDS」の「食」にまつわる活動も企画しています。

これからも、地域の農地を守り、農業を生業として選べるような業種にすることを目標に、消費者に美味しいと言ってもらえるものを作っていきたいです。

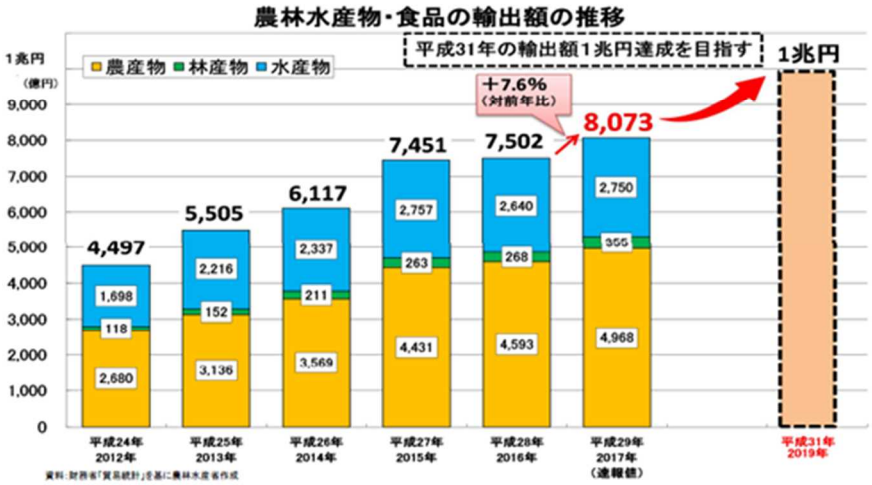
平成29年農林水産物・食品の輸出実績を取りまとめました

農林水産省は、政策目標として、平成31年の農林水産物・食品の輸出額1兆円を掲げ、目標達成に向けて様々な取り組みを進めています。

このたび、財務省貿易統計の公表を受け、「平成29年農林水産物・食品の輸出実績」がとりまとめられ、その結果、農林水産物・食品の輸出は平成25年から5年連続で増加し、平成29年輸出実績（速報値）は8,073億円となり、前年比で7.6%増加しました。農産物は4,968億円（対前年比8.1%増）、林産物は355億円（32.3%増）、水産物は2,750億円（4.2%増）となっています。

主な輸出先は、香港、米国、中国、台湾、韓国で、アジア地域では、5,902億円となっており、全体の73.1%を占めます。

品目別（金額ベース）でみると、アルコール飲料、ホタテ貝、真珠、ソース混合調味料、清涼飲料水、さば、なまこ、牛肉等が多く、また、さんま、丸太、植木等、いちご、いわし等の品目については、前年に比べて5割以上増加しています。



詳しくは http://www.maff.go.jp/j/press/shokusan/kaigai/180209.html

「経営所得安定対策等の概要」をご活用下さい

平成年30年度経営所得安定対策等の単価、取組内容等を掲載したパンフレットが取りまとめられましたので、是非ご活用下さい。

需要に応じた生産の促進と水田農業全体としての所得の向上等により、農業経営の安定を図るため、経営所得安定対策等に加入しましょう。

詳しくは http://www.maff.go.jp/j/kobetu_ninaite/keiei/pamph.html

平成30年春の農作業安全確認運動実施中！

農林水産省は、毎年350件前後発生している農作業死亡事故を減少させるため、3月から5月までを農作業安全対策の重点期間として、平成30年春の農作業安全確認運動を実施しています。

平成30年の運動につきましては、GAP（農業生産工程管理）の周知を通じた現場の改善活動、農業者への安全確保の声かけ・注意喚起等の農作業事故防止対策の取り組みを推進しています。

詳しくは http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/sizai/180206.html

メールマガジン配信中！！

近畿農政局兵庫県拠点では、メールマガジンの配信を行っています。
ご希望の方は、ホームページから必要事項を記入の上、お申し込み下さい。

詳細は http://www.maff.go.jp/kinki/tiiki/hyogo/pr/mail_magazine.html

地方参事官ホットライン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見・ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。

TEL：078-331-5924　FAX：078-331-5177